

VNにおけるNの個性性について — Nの意味役割を中心に

野田 耕司

キーワード VN 格関係 意味役割 個別事象 非個別事象 個体 メトニ
ミー

0. はじめに
1. 非個別事象を表すVNの分類
2. 任意項Nを目的語にとるVN
3. Nが個体を表し得るVN
4. [原因] Nの個性性
5. Nが個体を表せないVN
6. 慣用句VN
7. おわりに

0. はじめに

本稿は「動詞＋名詞」の動目連語（以下、VN）の表す事象（行為）の個性性、特にNの個性性について、V・N間の格関係より考察を試みるものである。次の文の下線部のような「裸動詞＋裸名詞」のVNは通常、概念世界における非個別的事象・一般的行為を表しており、現実世界における個別的事象・具体的行為を表しているわけではない。

- (1) 吃饭是为了生活，但生活并不仅仅为了吃饭。

(句子大全：<http://www.1juzi.com/new/37446.html>)

(食事は生活のためにするが、生活は食事のためだけにするわけではない。)

(2) 教室不是吃饭的地方，而是念书的地方。

(教室は食事をするところではなく、勉強をするところだ。)

木村2014によれば、中国語では無標の裸名詞が指示する事物は属性や類的総体であり、概念的・知識的な存在であるとされ、実体的・知覚的な存在である個別・具体の事物を指示する場合には数量詞や指示詞などによって名詞を有標化するとされる¹⁾。また動詞についても、「動作・行為を表す一般動詞は、辞書形、すなわち無標のかたちでは、個別・具体の動作の言及に適さない」(木村 2014) とされ、無標の裸動詞は一般には経常的あるいは習慣的行為に言及して用いられ²⁾、このような動作・行為は裸名詞の表す事物同様、知識的・概念的な存在であるとされる。一方、動詞が重ね型をとったり、数量詞やアスペクト助詞を後置したり、動詞述語文の文末に語気助詞の“了”“呢”を付加するなど、有標化された場合は、特定の時空間における個別・具体のアクチュアルな動きを表し、その動きは知覚的・実体的な存在であるとされる。

従って「裸動詞+裸名詞」のVNは基本的に概念としての非個別事象を表すとと言える。例えば、(1)(2)の“吃饭”(ご飯を食べる、食事する)は“吃”も“饭”も個別・具体の動作・事物を指し示しているのではなく、また“吃饭”で表される事象も個別・具体的なものではなく、いずれも非個別的・概念的な動作(V)、事物(N)、事象(VN)を指し示している。(2)の“念书”も「(個別の)本を声を出して読む」という個別・具体的事象としてではなく、「(学校で)勉強する」という意味の慣用句となって非個別的・一般的事象として用いられている。

一方、VやNに付加成分を置き、統語的・形態的に複雑化させたVNは個別具体性の高い事象を表す。

(3) 今天，我吃了一碗饭，是小鸡炖蘑菇和大米饭，拌着吃，香喷喷的！

(作文库：<http://www.zuowenku.net/zuowen4039352750.shtml>)

(今日、私はご飯をお茶碗に一杯食べました。カシワとキノコのご飯です。かき混ぜて食べました。とてもおいしかったです。)

- (4) 女儿快3岁, 昨天晚上给她念了这本书, 念完她要求再看一遍, 自己看完又要求我再讲一次, ……

(PCbaby太平洋亲子网, 《我的连衣裙》导读与热议

: http://edu.pcbaby.com.cn/resource/zjyd/huiben/1109/1029724_all.html)

(もうすぐ三歳になる娘に、昨晚この本を読んであげました。読み終わった後ももう一度読みたいとねだられ、娘は自分で読んでからもまた私に読み聞かせてほしいとせがみ、……)

上記の例の場合、Vの“吃”“念”に完了のアスペクト助詞“了”を加えることにより、概念としての動作を時間軸上に位置付けて個別具体化するかわち現実化させ、Nの“飯”“书”に数量詞や指示詞を加えて概念としての事物を、空間性、言わば輪郭・境界を具える有形の実体に、更には個別の実体である個体に変化させる。(3)の“飯”は数詞と碗に入ったものを数える借用量詞に修飾されることで、無形から有形に変化し、指示する事物も(1)(2)のような、米飯やパン、麺など様々な食べ物の上位概念・総称であり、かつ輪郭が曖昧な「ご飯(食事)」ではなく「米飯」(例文では、カシワとキノコを混ぜた米飯)に限定、個体化されることとなる。(4)の“念”にはもはや(3)のような「勉強する」という一般的行為の意味はなく、「声を出して読む」という、より具体化した動作の意味で用いられている。

従って概念としての非個別事象・一般的行為を指示対象とするVNである“吃飯”(食事する)、“念书”(勉強する)には、Nの表す事物に個体化を促す数量詞定語(数量修飾語)を付加しないのが普通である³⁾。「教室は食事をするところではなく、勉強をするところです」という意味では、次の文は不自然なものとなる。

- (5) ? 教室不是吃一碗饭的地方, 而是念一本书的地方。

杉村1999は(1)(2)の“吃饭”(食事する)のようなVNが表す非個別・概念的事象は命名レベルにおける概念化された情景(行為・現象)を表現したものであり、(3)の“吃(了一碗)饭”(米飯を食べる)のようなVNが表す個別・具体的事象は個別的な事例レベルに属す表現であるとして区別している。“洗衣服”を例にとれば、命名レベルの情景としてのそれは「洗濯する」という日本語に相当するもので、“衣服”は必ずしも「服」に限定されず、繊維製品の総称であるとされる。一方、事例としての“洗衣服”は「服を洗う」であり、“衣服”は衣類に限定される。

杉村1999によれば、中国語では概念化された情景を命名する際にVNの形式を採用し、述語と目的語にはその情景を最も端的に象徴する動詞と名詞が選ばれるという。杉村1999では、「信号無視(をする)」という情景を最も端的に表すVとNとを組み合わせた“闯红灯”(“闯”[突進する]+“红灯”[赤信号])を例として挙げている。

“闯红灯”のような概念化された情景を表すVNは個別的事例を表すVNとは異なり、“吃食堂”(食堂で食べる)、“吃大碗”(どんぶりで食べる)、“写毛笔”(毛笔で書く、筆書きする)、“写正楷”(楷書で書く)、“唱小生”([旧劇]二枚目を演じる)のように「動作+受動者(“受事”)」以外の格関係を具えるものや、もともと受動者目的語をとらない自動詞がVに立つ“哭鼻子”(泣きべそをかく)、“跑龙套”(端役を演じる、雑用係をやる)のようなものもあることから、従来の格文法では合理的な説明のつき難いVとNの組み合わせである。このことはつまり、非個別事象を表すVNにおけるVとNの組み合わせり方は、概念レベルの行為・現象に対する中国語流の名付け方を反映したもので⁴⁾、統語的には動目関係にあるものの、意味的には通常考えられるような動目関係を越えた関係にあることを物語っている。

また、杉村1999によれば、概念化された情景を表すVNはVとNが融合し「二つで一つ」の意味を表す、つまり「 $1 + 1 = 1$ 」の関係を有する組み合わせであるのに対し、個別的事例を表すVNはVとNが「それぞれ独立し独自に特定の意味に対応している」(杉村 1999)、言わば「 $1 + 1 = 2$ 」の関係を有し、そのため

Nは「動詞の支配を振り切り、動詞に先行して現れたり、はなはだしくは言わなくてもわかるからと省略することまで可能である」(杉村 1999) とされる。以下はいずれも個別的事例を表す“洗衣服”の例である。

(6) 我洗了一件衣服。

(私は服を一着洗った。)

(7) 我把衣服都洗了。

(私は服を全て洗った。)

(8) a 衣服洗了吗?

(服は洗ったかい。)

b 洗了。 / 为什么要我洗?

(洗った。 / どうして私が洗わなければならないの。)

以下、本稿では、杉村1999が述べるVNによって表現される個別的な事例を「個別事象 (もしくは個別行為)」と呼び、概念化された情景を「非個別事象 (もしくは非個別行為)」と呼ぶ。

VNが生起して個別事象を表す統語形式のうち、「V+了+数量詞定語+N」は、動作 (V) の個別・現実性と事物 (N) の個別・実体性がともに具わった、個性の極めて高い事象すなわち「出来事」を表すことができる形式である。本稿では、この形式の構成可否を判断基準に様々な格関係を有するVNの個性、特にNの個性について考察を加えていきたい。

1. 非個別事象を表すVNの分類

「裸動詞+裸名詞」の統語形式をとって非個別事象を表すVN (Vは動作動詞、Nはヒト・モノ・トコロなどの物体を表す名詞) は、項構造 (NがVの必須項か任意項か) と、V・Nが組み合わさった時にVN全体で一つの意味を表す固定化した慣用句として用いられるか否かによって、ひとまず次のように分類できる。

ひとまずと言うのは、ここでは通常、任意項と見なされる意味役割 [材料] [目的] [原因] を省いているからである。

(A) V+必須項 (受動者/結果)

- ① 「V+必須項」: 吃饭 (米飯を食べる)、喝酒、念书(本を読む) (以上、受動者)、包饺子、写字、做衣服 (以上、結果)
- ② 「V+必須項」の慣用句: 吃饭 (食事をする)、吃粉笔灰 (チョークの粉を食べる→学校の先生をやる)、喝墨水 (墨汁・インクを飲む→学問をやる)、念书 (勉強する) (以上、受動者)、做文章 (文章を作る→言いがかりをつける) (結果)

(B) V+任意項 (場所/道具/方式)

- ① 「V+任意項」: 吃食堂、教大学、读大学 (以上、場所)、吃大碗、喝小杯、写毛笔 (以上、道具)、写正楷、画水彩、唱C调 (以上、方式)
- ② 「V+任意項」の慣用句: 坐办公室 (事務室・オフィスで座る→事務仕事をやる)、走后门 (裏門を抜ける→コネを使う) (以上、場所)、吃小灶 (特上・特別待遇のメニューで食べる→特別扱いを受ける)、唱高调 (高い調子で歌う→大口をたたく) (以上、方式)

動作の受け手である意味役割 [受動者] や、動作によって生み出された生産物 (製作物) である [結果] は通常、優先的に動作動詞の目的語として具現化するVの必須項であり、A①に示した「V+受動者」「V+結果」であればそれぞれ、“吃{(米)飯/饺子/面条……}” “做{衣服/桌子/炸酱面……}”のような生産性の極めて高い結びつきであるVNを構成する。この「V+必須項」には“吃粉笔灰”(学校の先生をやる)、“做文章”(言いがかりをつける)のように通常、慣用句として用いられるタイプ (A②) もある。

B①の“吃食堂”(V+場所)、“喝小杯”(V+道具)のNに見られる [受動者]

[結果] 以外の意味役割は動作動詞の任意項であり、例えば“*吃教室”“*喝碟子”が言えないようにこれらのVとNの組み合わせには制限がある⁵⁾。「V+任意項」にもまた、“坐办公室”(事務仕事をする)、“吃小灶”(特別扱いを受ける)、“唱高调”(大口をたたく)のように慣用句として用いられるタイプ(B②)がある。

A④は(9)のように非個別事象を表すのはもちろん、アスペクト助詞や数量詞定語などを付して(10)のように個別事象を表すことも可能であり、(10)のNは現実世界に現れた個別の実体すなわち個体を表している。

(9) 北方人春节时吃饺子。

(北方の人は春節に餃子を食べる。)

(10) 我们两个人今天中午吃了三盘饺子。

(私たち二人は今日昼に餃子を三皿食べた。)

後で詳述するように、A④以外は基本的に個別事象を表す「V+了+数量詞定語+N」の統語形式をとることが難しく、Nが個体を表すこともない⁶⁾。

(11) *他喝了一瓶墨水。(※「学问をする」の意味の場合)(A②)

(12) *我吃了一个大碗。(B①)

(13) *他坐了一间办公室。(B②)

但しB同様、通常任意項と見なされる[材料][目的][原因]、そして上記に挙げた[場所]以外の“装箱子”(箱に詰める)のNのような[場所]には、「V+了+数量詞定語+N」のNとして生起するものがあるが、これらについては本稿の3と4で述べる。

2. 任意項Nを目的語にとるVN

先のBのVNは、Nが本来、Vの必須項でない任意項であり、例えばV“吃”が

必須項である〔受動者〕としての食物を表す名詞を目的語にとる場合、任意項の“大碗”（道具）、“食堂”（場所）は状語（連用修飾語）として具現化する。

(14) 我们两个人今天中午在食堂用大碗吃了三碗饺子。

（私たち二人は今日お昼に食堂で餃子をどんぶりで三碗食べた。）

なお、Bに属すVNの生成については、次の例文（袁毓林 1998, 135より引用）のように状語位置の介詞（前置詞）を伴った名詞が、目的語位置に移動、すなわち述題化（あるいは目的語化）したものと考える研究もある（例えば、袁毓林 1998, 135-142、張云秋 2004、任鷹 2005）。

- (15) a 我们在地板上睡 → 我们睡地板 （場所）
b 我们用大碗吃饭 → 我们吃大碗 （道具）
c 我们用美声唱歌 → 我们唱美声 （方式）
- (16) a 老师正在黑板上写字呢 → 老师正写黑板呢 （場所）
b 爷爷正用烟斗抽旱烟呢 → 爷爷正抽烟斗呢 （道具）
c 爸爸正用农药喷草坪呢 → 爸爸正喷农药呢 （材料）
d 小王正为电影票排队呢 → 小王正排电影票呢 （目的）
e 我们明天跟日本队打球 → 我们明天打日本队 （相手）

袁毓林1998,136によれば、(15)のVNは方式（仕方）を表し、“怎么办?”（どのようにするのか）の返答として用いられ、(16)のVNは行為（袁毓林1998では“活动”）を表して“干什么?”（何をしている／するのか）の返答になると言う。

しかし、Bに属すVNの中には慣用句の“哭鼻子”“跑龙套”のように、そもそも表層構造において述題化される前の「介詞＋N＋V」の構成が困難なVNもある。また、“坐办公室”（事務仕事をする）と“在办公室里坐着”（事務室で座っている）、“走后门”（不正なルートという比喩としての「裏口」を使う）と“从

后门走进”（出入口としての裏口から入る）のように⁷⁾、VNでは比喻義となって「介詞＋N＋V」と意味が異なるものもあるため、述題化でこの種のVNの生成全てを説明することは困難である。語用論的な動機に基づき、比較的自由に目的語名詞などを文頭に移動させることのできる主題化が表層の文レベルでの統語的形成であるのに対し、特にBのVN形成は、V・N間の組み合わせり方に制限のある深層の連語レベルにおけるVとNの間の意味的形成であると言える。

杉村1999、同2017では、この種の非個別事象を表すVNのNを、熟語的な組み合わせである“吃食堂”“哭鼻子”におけるNはもとより、“说话”“读书”のような通常〔受動者〕と見なされるNも含めて、「象徴（目的語）」と名付けて処理しており、そもそも、非個別事象VNの生成は格文法による合理的な説明ができないという立場である。

確かに、VNにおけるNの意味役割を14種類に分けた孟琮・他1987《动词用法词典》にも、“闯红灯”、“闹情绪”（気持ちが腐る・不満を抱く），“打官司”（訴訟をする），“醒酒”（酔いを醒ます），“出风头”（出しゃばる）のようにVとNの意味関係が判然としないため“杂类”すなわち「その他」として処理されるものも多い。特に比喻義を具える慣用句に関しては、“跑龙套”“哭鼻子”におけるNの意味役割や、非慣用句としての組み合わせでは普通〔受動者〕と見なされるであろう慣用句“吃大锅饭”（皆が同じ待遇で働く），“喝墨水”（学問をする），“打屁股”（厳しく叱る）のNの意味役割をどのように処理すべきかについては悩ましい問題である。慣用句としての“吃大锅饭”“喝墨水”“打屁股”のNは実体（実物）でないのはもちろんのこと、Nが本来指示対象とするところの物体、身体部位からは意味が離れてしまっている。Vも本来表すところの具体的動作の意味ではない。よって、これらのNをVとの関係から〔受動者〕と呼ぶべきかどうかは議論の分かれるところであろう。もちろん、これら慣用句における比喩的な意味はVとNが組み合わせさせた後に産出されるものであって、組み合わせる段階では通常の「動作＋受動者」という格関係に基づいていると考えることもできる。

以下、このような慣用句を除いた上で、V・N間に格関係らしきものが認めら

れるものについて、Nの意味役割と、Nの表す事物の個性性の問題について見ていきたい。

袁毓林1998、張云秋2004は、中国語の名詞性成分(N)を通常的基本的な配列(“常規配位”)の文(基本文型)において、Vと必須的・義務的な意味関係を結んで主語や目的語となる“核心格”(動作主、受動者、結果など)のNと、Vと任意的な意味関係を有し状語として具現化する“外圍格”(“非核心格”とも)のN、の二大類に分けているが、“核心格”Nは言うまでもなくVの必須項のことであり、“外圍格”Nは任意項のことである。

張云秋2004,36は、動作動詞・心理動詞を述語動詞とする基本文型において“外圍格”すなわち任意項Nが状語として現れる文を次のようにまとめている。意味役割の名称は張云秋2004,36による。[]内はその日本語訳である。

【状語として現れる任意項Nの意味役割と文】

凭事 [手段]

材料 [材料] : 他用白灰刷牆。

工具 [道具] : 他拿石块敲核桃。

方式 [方式] : 老师让我用D调味。

依据 [依拠] : 大家都应该按规章制度办事。

因事 [理由]

原因 [原因] : 每个人都因为经费发愁。

目的 [目的] : 他为了这个名额到处活动。

境事 [状況]

处所 [場所] : 大家都在食堂吃饭。

时间 [時間] : 他每天六点钟起床。

范围 [範圍] : 我可以在这方面发挥自己的特长。

このうちV（動作主の意志性を伴う自主動詞）の目的語として具現化し得る任意項Nは [材料][道具][方式][場所][原因][目的] であり、次のようにまとめることができる。

【任意項Nを目的語にとる自主動詞述語文】

- [材料] 他正往墙上刷着白灰。
 [道具] 他吃大碗。
 [方式] 他唱C调。
 [場所] 他吃食堂。
 [原因] 他正愁经费呢。
 [目的] 他忙着跑材料呢。

张云秋2004,101-105では、更に [場所] を、①Vが“覆盖、填充”（被覆・充填）義を持つ“堵洞口、装箱子、抹嘴唇……”のようなタイプ、②VとNの組み合わせにおける類推性、すなわち生産性が比較的乏しい“吃食堂、吃馆子、教大学……”のようなタイプ、③Vが“占有、征服”（占拠）義を持つ“坐办公室、穿越太平洋、驻扎居庸关……”のようなタイプ、に下位分類する⁸⁾。なお、③には“坐办公室”の他、“坐第一把交椅”（一番目のひじ掛け椅子に座る→第一のポスト・席次を占める）、“闯关东”（山海関より東の地に入る→遠方の地で生計を立てる）、“走西口”（長城の関所を抜ける→〔山西省北部から〕長城を越え〔包頭あたりへ〕出稼ぎに行く）のような慣用句も含まれる。

次に [原因] と [目的] についても、张云秋2004,124-126（张云秋2004では [原因] [目的] を合わせて“动机”とする）によれば、従来の研究においてNを [原因] [目的] としているVNを帰納すると次の4タイプに分けられるとする。すなわち、①Vが消極的な心理活動を表す“愁钱、后悔这件事、操心儿女的婚事……”のようなタイプ（一般的には [原因] とされる）、②Vが逃避義を持つ“逃难、躲警报、避雨……”のようなタイプ（一般的には [原因]）、③Nが“动机”でありながらV

が比較的高い他動性を具える“考研究生、读硕士、谈生意……”のようなタイプ（一般的には [目的]）、④Vが“转喻义”（換喩・メトニミー義）を具えることによってNとの結合が可能になっているとする“排票、蹭饭、跑材料……”のようなタイプ（一般的には [目的]）、である。なお、④は、「排队买票”→“排票”のような短縮形と見なす考えもあるが、张云秋2004,126-131では、“排票”のVは“买”のメトニミーと見なし、よってNの意味役割も“动机”もしくは [目的] ではなく [受動者] として処理している。本稿もこの考えに従う（本稿3で詳述）。

以上をまとめると次のようになる。例は全て张云秋2004より。

【任意項Nを目的語にとるVNの分類】

- (ア) [材料]：刷白灰、抹口红、涂指甲油、糊纸、浇水、捆麻绳、罩纱布、盖塑料布、裹报纸
- (イ) [道具]：吃大碗、喝小杯、写毛笔、洗凉水、听耳机、抽烟斗、看显微镜（←用显微镜看 [实验结果]）、打电脑（←用电脑打字）
- (ウ) [方式]：唱C调、唱小生、写草书、寄快件、存活期、游蛙泳、捆十字、剪平头、织平针
- (エ) [場所①]（“堵洞口”類）：堵洞口、装箱子、抹嘴唇、挡窗户、盖酱缸、蒙脸
- (オ) [場所②]（“吃食堂”類）：吃食堂、吃馆子、教大学、读大学
- (カ) [場所③]（“坐办公室”類）：坐办公室、坐第一把交椅、穿越太平洋、驻扎居庸关、漫步山野
- (キ) [原因①]（“愁钱”類）：愁经费、后悔这件事、操心儿女的婚事、庆幸自己的远见、哭什么、伤感什么
- (ク) [原因②]（“避雨”類）：避雨、逃难／债、躲警报、逃避困难／责任／惩罚
- (ケ) [目的]：考研究生／博士、读硕士／学位、查生字、筹备展览会、计较个人得失、辩论裁军问题、谈生意、协商国家大事
- (コ) [(目的→) 受動者]（“排票”類）：排票、蹭饭、挤票、跑材料、跑生意

本稿では語彙的意味として個性を具え得るVとN、すなわち時間性、特に時間上の有限性（限界性）を具え得る動作を表す動詞と、空間上の有限性である空間性（境界性）を具え得る物体（ヒト・モノ・トコロ）を表す名詞、を組み合わせたVNを中心に、VNの表す事象の個性性とNの表す物体の個性性について考察する。従って以下、特に〔原因〕〔目的〕をNにとるVNのうち、可視性のある有形の物体とは言い難いNをとるものは考察対象から極力外して議論していくこととする。

3. Nが個体を表し得るVN

次の表は張云秋2004、王红斌2009を参考に、VNの表す事象の個性性、特にNの表す物体の個性性すなわち個性性に関わる統語形式である「V+了+数量詞定語+N」を、種々の格関係を持つVNが構成可能か否かを示したものである。前述したVの任意項（表中では外圍格と記す）である意味役割を担うNの他に、必須項（表中では核心格）である〔受動者〕〔結果〕を担うNも加えた。なお「V+受動者」には“开夜车”（徹夜をする）のような慣用句を含めない。先の〔原因①〕と〔原因②〕は一つにまとめ〔原因〕とした。表中の例文は主として張云秋2004、王红斌2009によるが、一部任鷹2005、林杏光・他1994《现代汉语动词大词典》(略号は动词大词典)、CCLなどからの例文もある。

表から、核心格の〔受動者〕〔結果〕、外圍格の〔材料〕〔“堵洞口”場所〕〔目的〕〔“排票”受動者〕は個別事象を表すVNを構成可能で、且つNが個別の実体を表せることがわかる。なお、これらは「裸動詞+裸名詞」の形式をとって非個別事象を表すことももちろん可能であり、この場合Nは概念的物事を表す。

表 Nの意味役割と「V+了+数量詞定語+N」における生起状況

Nの意味役割		統語形式	V+了+数量詞定語+N	
核心格	受動者		○ 他吃了一袋爆米花。 他喝了一杯热可可。	
	結果		○ 他飞快地切了一盘萝卜丝。 父亲终于盖了一个很好的鸡窝。	
外圍格	材料		○ 这面墙刷了一大袋白灰。 这顿饺子包了五斤面。(任鹰 2005, 117)	
	方式		× *他唱了一个小生。 *他走了一个八字步。 ⁹⁾ ※ ○の場合、[結果][受動者]に変化 他打了一个井字。(結果) 他邮了两封平信。(受動者)	
	道具		× *我吃了一个大碗。 *他写了一支非常大的毛笔。	
	場所	“堵洞口”類		○ 爸爸为了这个会把有关的资料装了满满一(个)书包。(动词大词典, 1099) 公共汽车、无轨电车和小汽车首尾相连, 堵塞了一条又一条马路。(CCL)
		“吃食堂”類		× *他吃了一个食堂。 *他教了一所大学。
		“坐办公室”類		× *他坐了一间办公室。 *他漫步了一片山野。
	原因		△ 一路上他避了好几场大雨。 *他愁了一笔钱。 *这件衣服缩了一台洗衣机里的水。	
目的		○ 我在自行车管理所办理了一张过户证明。(动词大词典, 26) 我去地里掏了两个红薯。		
(目的→) 受動者	“排票”類		○ 他蹭了一碗面条。 他排了三张电影票。	

以下に、非個別事象VNの例(a)と個別事象VNの例(b)を挙げておく(以下、順に[結果][材料][“堵洞口”場所][目的][“排票”受動者]の例、なお[受動者]の例は先の(9)(10)。

- (17) a 记得从前故乡的雪一冬不化，入冬以后孩子们的主要娱乐活动就是玩雪了：打雪仗、滚雪球、堆雪人，甚至干脆就在雪地里打滚……(CCL)
 (かつて故郷の雪は一冬溶けることがなく、冬になると子どもたちの主な娯楽は雪遊びであった。雪合戦、雪玉転がし、雪だるま作り、更には思い切って雪の中を転げまわることも……)
- b 地上象铺了白地毯一样，小男孩儿滚了一个雪球。不一会儿，他堆了一个可爱的雪人。
 (小聰聰的博客：http://blog.sina.com.cn/s/blog_662fe2790100hq4k.html)
 (白いじゅうたんを敷いたかのような地面で、小さな男の子は雪の玉を作り、ほどなく可愛らしい雪だるまが出来上がった。)
- (18) a 整个暑假，我都在外面打工。风里、雨里、烈日下，去街头刷油漆、扫街道、清除杂草、搬运垃圾……(CCL)
 (夏休みいっぱい、私は外で働いた。風の中、雨の中、炎天下でも、街に行ってペンキを塗り、通りを掃除し、雑草を抜き、ゴミを運搬し……)
- b 墙壁不像大多数人家那样乌黑、灰泥剥落，而是刷了一层淡绿的油漆，这在当时是很奢侈的。(CCL)
 (壁は大多数の人家のように真っ黒で漆喰が剥げ落ちているということではなく、薄緑色のペンキが塗られていて、それは当時としてはとても贅沢なものであった。)

- (19) a 我们搬家、收东西、装箱子的经验特丰富。(CCL)
(私たちは引っ越し、片付け、箱詰めの経験が特に豊富であった。)
- b 过年回家，他把自己的头套服饰等行头，装了一个箱子，放到朋友家里。
(北国网，辽宁新闻，〈阴柔李玉刚其实挺“爷们”〉
: http://news.lnd.com.cn/htm/2009-03/01/content_567773.htm)
(年越しで家に帰ると、彼は自分の舞台用のかつらや衣装などをスーツケース一つに詰めて、それを友人の家に置いて来た。)
- (20) a 在母亲的指挥下，一家人兵分两路：父亲挖地窖，母亲、姐姐和我掏红薯。
(汉丰网，湖北日报，〈立冬，收藏时光〉: <http://www.kaixian.tv/gd/2015/1109/711429.html>)
(母の指揮の下、一家は二手に分かれ、父は貯蔵用の穴掘り、母と姉、私は芋掘りをした。)
- b 偶尔去地里掏了两个红薯，放到火堆里面烤，等到烤熟了，分着吃，很香也很温馨。
(新浪看点，〈专家呼吁农村禁止烧柴火做饭，烧秸秆等，让我想起一些童年的记忆〉
: http://k.sina.com.cn/article_6491098459_182e64d5b00100d34q.html?cre=tianyi&mod=pcpager_focus&loc=15&r=9&doct=0&rfunc=100&tj=none&tr=9)
(たまに、畑で芋を二本掘って来て、たきぎに放り込んで焼いた。焼き上がったら、割って食べた。美味しくて温かく芳ばしい香りがした。)
- (21) a 据哈站工作人员介绍，受网上订票、电话订票分流等因素影响，今年哈尔滨站窗口售票压力大为减轻，通宵“排票”的情况看不到了。
(网易，〈哈尔滨火车站：“排票”旅客数量下降〉
: <http://money.163.com/13/0123/18/8LU4VU4U00253B0H.html>)

(ハルビン駅の職員が紹介するところによると、切符のネット予約、電話予約など予約方法が分散することにより、今年ハルビン駅窓口での発券業務の重圧は大いに軽減され、徹夜して「切符 [を買い求めて列] に並ぶ」状況も見られなくなったという。)

- b 上次姐姐刚好要出生的时候，学友哥去了武汉开唱，老婆顶着大肚子去排了两张票，但因为姐姐降临，无缘前去。

(无尾熊和她的尤加利——无关紧要的恬淡 :<https://kg2km.wordpress.com/>)

(前回、娘がちょうど生まれようとしていたとき、ジャッキー兄貴が武漢でコンサートを開くということで、嫁は大きなお腹を張り出しながら「チケットを二枚手に入れようと列に並んだ」列に並んでチケットを二枚手に入れたけれど、娘が「降臨」したのでコンサートに行きようがなかった。)

ここで、[目的] と [“排票”受動者] に共通する意味特徴とその連続性について触れておく。一般に [目的] とされる [“排票”受動者] は、(21)aのように非個別事象では確かに [目的] とも解釈可能であるが、個別事象「V+了+数量詞定語+N」では、Vは「VしてNを得る」という [+獲得義] の動詞に変化、よってNも [目的] から獲得される事物 [受動者] に変化していると考えられる。(21)bの“老婆”は文脈から考えても明らかにチケットを手に入れている。

また、[“排票”受動者] に属す“跑材料”（材料・資料を求めて奔走する）と同義の“奔材料”についても、王紅斌2009,95によれば、“奔了一些材料”の“材料”は数量詞が付くことで [目的] ではなく [結果] になると言う（なお本稿では獲得された事物は [結果] ではなく [受動者] として扱う）。つまり、“奔”は「(～のために/～を求めて) 奔走する」から「奔走して～を得る」という獲得義を具える動詞のメトニミー表現に変化しているというわけである。動作・事物が話し手に向かうことを表す方向補語“来”を“奔”に後置すると、獲得義がより明瞭になる。

(22) 奔来了二百万元的贷款 (講談社: 訳も)

(奔走して200万元を借り入れた)

このように [“排票”受動者] をNにとるVには個別事象において獲得義が具わることによりNが個体を表すことも可能になるのだが、[目的] をNにとるVもまた程度の差こそあれ、基本的に獲得義を具える¹⁰⁾。(20)の“掏红薯”(芋を掘る)は「芋を得るために(畑・土 [受動者] / 穴 [結果] を)掘る」わけで“红薯”は通常 [目的] と格解釈されるが、[V+了+数量詞定語+N] の個別事象では「(畑・土 [受動者] / 穴 [結果] を)掘って芋を得る」と [受動者](手に入れるモノ)として解釈した方が適当である。(20)bでは個体としての芋が明らかに例文の筆者の手に入っている。[V+了+数量詞定語+N] においてVが獲得義を具える典型(プロトタイプ)が [“排票”受動者] とするならば、Nが [目的] とされる“掏红薯”はこの典型に極めて近い性格を有しており、むしろ [“排票”受動者] と見なした方がよいかもしい。

とは言え、[目的] の中には [V+了+数量詞定語+N] の形式中であっても補語の助けや文脈の支えがないとVの獲得義が明瞭にならないものがあるのも事実である。Nが [目的]¹¹⁾とされる次のaとbはいずれも文脈の支えがない個別事象を表す単文であるが、補語を用いていないaにおけるVの獲得義は明らかに読み取り難い。

(23) a 他申请了一笔奖学金。

b 他申请{下来/到了}一笔奖学金。

[V+了+数量詞定語+N] の形式と生起する文脈により、Vに獲得義が生じNが個別の事物を表す [目的] の例としては、他に“读硕士”が挙げられる。“读硕士”の“硕士”は修士課程の院生すなわち空間性を具えるヒトを指しているのではなく、修士号、修士課程あるいは修士の身分という非物体を指している。張云

秋2004,126では先の(ケ)のように同類のVNに“读学位”を挙げていることから、“读硕士”を「修士号を得るために学ぶ」と解釈しているようである。「修士課程で学ぶ」と解釈するのなら“硕士”は“读大学”の“大学”のように[場所(“吃食堂”類)]とも考えられるが、次の例文では、“读硕士”は学位と見なした方が妥当であろう。

- (24) 她本科和我同校，先在英国读了两个硕士，然后到美国读了一个博士。在美国，读了博士一般都要到研究所或高校去工作，可是，她想进金融机构。

(中青在线，焦家胜〈放低身段是一种生存智慧〉

:http://zqb.cyol.com/html/2011-02/03/nw.D110000zgqnb_20110203_1-03.htm)

(彼女は学部は私と同じ学校だったけれど、英国で修士号を二つ取り、その後米国で博士号を一つ取った。米国で博士号を取ったなら普通は研究機関か大学で働くものだが、彼女は金融機関に入りたがっていた。)

“读硕士／博士”の“硕士／博士”は空間性を具える物体ではないが、例文では個別の事物である学位を指していることは確かである。そして“读硕士／博士”が例文のように「V+了+数量詞定語+N」に用いられた場合、“读”は文脈の支えもあり「勉強して学位をとる」という獲得義が生じて、“读硕士／博士”にも“排票”と同様に「動作－受動者」の意味関係が具わると考えられる。また例文の“读了一个博士”と波線部の“读了博士”を比べると、個別化された前者のNの方が受動者性が高くなるのに対して、後者は日本語訳のように直前の文を受けて「博士号を取ったなら」とも解釈できるが「博士課程で学んだなら」とも解釈できなくはない。

“读了博士”と同様、Nが「数詞+名量詞」の修飾を受けることなく個別化していない次の文では、明らかに“读”に獲得義が生じておらず、本来の「(学校で)勉強する」の意味となっており、この場合“博士”は[場所(“吃食堂”類)]とも

解釈できる。

(25) 他在这个领域读过几年博士。(动词大词典, 253)

(彼はこの分野において数年間博士課程で学んだ。)

以上のように [目的] はVが具える獲得義の強弱に関わらず、「V+了+数量詞定語+N」の個別事象文において個別の実体・事物を表すことが可能であり、同様に個体を表すことのできる[“排票”受動者]とはVの獲得義とNの受動者性において連続体を成していると言える。従って、[目的]もまた個別事象を表すVN中では広義の[受動者]に変化していると考えた方が適当であろう。

4. [原因] Nの個性

[原因]を担うNについても、語彙的意味として空間性を具える物体(ヒト・モノ・トコロ)を表すものに対象を限定してその個性を見ていきたいが、次のように数としては極めて少ない。ここでは[原因]NをとるVNを、本稿の2で分類した(キ)(ク)の他に「水にぬれて縮む」という意味の“縮水”“抽水”(「ポンプなどで水を吸い上げる」という意味の“抽水”ではない)を加えて分析してみる。

避雨、避风、躲雨、躲子弹 [“避雨”原因]

愁钱、愁房子、哭奶奶 [“愁钱”原因]

缩水、抽水 [“缩水”原因]

そもそもVN中のNの意味役割を[原因][目的]として処理する形式的根拠は、孟琮・他1987《动词用法词典》によれば、次に示すように[原因]は“因为”を用いてNをVの前に置けるもの、[目的]は“为”を用いてNをVに前置できるもの、ということである(以下の例は《动词用法词典》より。なお[原因]に“为(了)”

を用いることもある)。

避雨	→	因为下雨而躲避
哭奶奶	→	因为奶奶而哭
缩水	→	因为着水而收缩
考研究生	→	为当研究生而考试

NはVで表される動作を引き起こす原因・目的すなわち動機であるが、上記の例に関して言えば、Nが表わす事物そのものが動作の動機になっているのではなく、Nが関与する現象(“下雨”)・動作(“当研究生”)・事柄(“哭奶奶”は“因为奶奶的事而哭”とも解釈可能)が動機となっており、Nはその動機を象徴する事物である。よって、非個別事象を表すVNの形式に凝縮可能なのだと解釈できる。

但し、逃避義を具えるVと逃避の原因とされるNの組合せである“避雨”“躲子弹”などはむしろ、Nを逃避の対象すなわち広義の[受動者]と捉えた方が妥当かもしれない。これらは、通常の「V+N [受動者]」同様、Nに数量詞定語を付してNの表す事物を個体化できる場合もある¹²⁾。

(26) 一路上他避了好几场大雨。(张云秋 2004, 138)

(途中彼は幾度ももの大雨を避けた。)

(27) 他躲了一颗子弹。

(彼は銃弾を一発よけた。)

一方、[“愁钱”原因]の場合、次の例のように「V+了+数量詞定語+N」の個別事象を構成し難いにはNの個性の有無以外にも理由があると言える。[“愁钱”原因]をNにとるVが多く“愁”“后悔”“操心”のような心理動詞のため、アスペクト助詞“了”の生起に制約があることも文の不成立に関係していると言える。

- (28) *他愁了一笔钱。
(29) *他愁了一栋房子。

アスペクト助詞“了”は“愁”“后悔”“操心”とそもそも共起できないというわけではなく、“愁了好几回”“后悔了半天”“操心了一辈子(操了一辈子心)”(以上、《动词用法词典》より)のように通常、動量・時量補語とともに現れる。その場合、次の例のように〔原因〕NはVの目的語位置に生起していないことに注意されたい。

- (30) 路费妈妈愁了好多天了。(BCC)
(旅費については母は何日も悩んでいる。)
(31) 我也为房子愁了好多年。(BCC)
(私も家のことで何年も悩んだ。)
(32) 为这事他后悔了一辈子。(动词大词典, 381)
(このことで彼は一生後悔した。)
(33) 他为我操了一辈子心。(动词大词典, 95)
(彼は私のことで一生苦労した。)

「V+了+数量詞定語+N」の形式における〔“愁钱”原因〕Nの個性性については、結びつく動詞の性質、すなわち有限性をもたない心理動詞の性質から本稿では考察対象外としておくが、(31)を見てもわかるようにこの種の〔原因〕を表すNは例え物体名詞であっても、目の前に存在しているような実体とは必ずしも言えず、頭の中の概念的な事物と解釈した方が妥当なように思われる。

上記二類に比べてNにVとの関係における受動性が明らかに認められず、またVNにおいてNが個体を表せないという理由から「V+了+数量詞定語+N」の個別事象が構成できないのは、〔“缩水”原因〕に分類した“缩水”“抽水”である。「服がたらいや洗濯機の水で縮んだ」という意味で次のように言うことはできな

い。

- (34) *这件衣服缩了一盆水。
 (35) *这件衣服缩了洗衣机里的水。
 (36) *这件衣服缩了一台洗衣机里的水。

次の例では一見、“不少”“一点儿”が“水”を修飾して個体化しているように見えるが、“不少”“一点儿”は“水”を個体化しているのではなく、つまり衣類などを縮めるに至った水の量を表しているのではなく（「多量／少量の水によって縮んだ」の意味ではない），“缩水”という現象の程度を表している。

- (37) 来一张刚从洗衣机里出来的，还没有全干呢。再来一张前世今生的对比照吧。瞧瞧，洗过之后，缩了不少水。

(wawale_文学城博客, 〈第二只手工编织包〉：

<http://blog.wenxuecity.com/blog/frontend.php?act=articlePrint&blogId=50010&date=201412&postId=32202>)

(洗濯機から出したばかりの〔ニットフェルトバッグの〕写真をブログに上げます。まだ乾ききっていません。もう一枚「ビフォーアフター」の比較写真をご覧ください。洗った後、〔水に〕大きく縮んでしまいました。)

- (38) 唯一的小遗憾就是，麻布的裤子洗过一次后，缩了一点儿水，比原来短了，……

(daisy的博客, 〈“恶”性循环〉：http://blog.sina.com.cn/s/blog_6ddd6e4b0100mi7s.html)

(唯一少しだけ残念なのは、リネンのパンツが一度洗った後、少し水に縮み、短くなったことです。……)

このようにVとNの間の意味関係すなわち広義の受動性の有無により、[原因]

Nは〔“避雨”原因〕と〔“縮水”原因〕に分けることができ、極めてわずかの例ながら、〔“避雨”原因〕は個体を表すことが可能なものが存在し、〔“縮水”原因〕は全く不可能であると言える。〔原因〕Nの個別性に関しては、Vが心理動詞のもの、Nが非物体のものも含めて、今後改めて検討する必要がある。

5. Nが個体を表せないVN

個別事象を表す文において個体を表せないVN中のNの意味役割は外圍格の〔道具〕〔“食堂”場所〕〔“坐办公室”場所〕〔方式〕であり、Nは現実世界に現れた実体ではなく概念的物事を表す。

但し〔方式〕を表すNについては次の例のように〔V+了+数量詞定語+N〕を構成可能なものもあるが、これらは動作後の〔結果〕と解釈すべきであり、縄や紐の縛り方、頭髮の刈り方、文字の書き方といった動作の方式から、動作を経て生じた結果性の形状を具えた実体である個別の縄・紐、頭髮、文字へと意味が変化していると考えられる¹³⁾。

- (39) 把绳子系了一个死扣儿
(ひもを小間結びにする)
- (40) 他打了一个井字。(张云秋 2004, 95)
(彼は井の字に縛った。)
- (41) 推了一个{平头/光头}
(角刈り/丸刈りにした)
- (42) 他写了三页大楷。(张云秋 2004, 95)
(彼は楷書の大きな字を三ページ分書いた。)

また個別事象では〔方式〕ではなく〔受動者〕と解釈した方が妥当なNもある。次の文は张云秋2004,94が方式目的語の例として挙げている文であるが、“短平快”(バレーボールのクイックスパイク)は、「V+了+数量詞定語+N」にお

いては [方式] (スパイクの打ち方) ではなく、[受動者] (クイックスパイクで打たれたボール) と格解釈でき、一種のメトニミー表現 (“短平快” = “短平快的球”) になっている。

(43) 他出其不意地打了個短平快。(張云秋 2004, 94)

(彼は相手の意表を突きクイックスパイク [のボール] を一本打った。)

張云秋2004,95では方式目的語でなく結果目的語とする次の個別事象における“平信”(普通郵便)も、[受動者](普通郵便で送られた手紙)であり、これもメトニミー表現である。

(44) 他郵了兩封平信。(張云秋 2004, 95)

(彼は普通郵便を二通送った。)

なお、杉村2017では任意項Nを目的語にとるVNの形成について、Vの任意項であるNが必須項に転換したものととらえ、転換の要因によって次の3タイプ、

- ①“吃食堂”タイプ : 象徴編入による任意項の必須項転換
- ②“写明信片”タイプ : メトニミーによる任意項の必須項転換
- ③“打三礦”タイプ : 文脈依存性短絡による任意項の必須項転換

に分けているが、Nが [方式] (個別事象では [結果] もしくは [受動者]) の“系死扣儿”“打井字”“推[平头/光头]”“写大楷”“打短平快”“邮平信”は②“写明信片”タイプに属すると言える。

次に [道具] はVNの形式をとって個別事象を表すことが基本的にできず¹⁴⁾、Nが表す事物も個別の実体ではない。Nが個別の実体を指しているのではないこと

は、次のように“枝（毛笔）”“双（耳机）”のような専用の量詞が使えないことからわかる。

- (45) 吃大碗 → *吃一个大碗 *吃了一个大碗
(46) 写毛笔 → *写一枝毛笔 *写了一枝毛笔
(47) 听耳机 → *听一双耳机 *听了一双耳机

王占华1997、同2000では、“吃大碗”“写毛笔”“听耳机”はそれぞれ“吃大碗 {飯／面}”“写毛笔字”“听耳机里的节目”のメトニミー形式であるとし、よってこれらのNの意味役割は [道具] ではなく [受動者] であると述べるが、次の例に見られるように、個別事象を表す文ではメトニミーとされる表現が成立しないことから、少なくとも構文論上はNを [受動者] と見なすことはできない。

- (48) 吃了一{个／顿}大碗面 → *吃了一{个／顿}大碗¹⁵⁾
(49) 写了一个毛笔字 → *写了一个毛笔¹⁶⁾
(50) 听了一首耳机里播放的歌 → *听了一首耳机

但し、「V＋道具」の中には、注15)で挙げた“吃火锅”（こん炉の付いた鍋で食べる→中国式寄せ鍋料理を食べる）や“{吸／抽}烟斗”（キセルやパイプで／を吸う）のようにNが個別の実体として個別事象を表せるVNも存在し、“{吸／抽}烟斗”の場合、“烟斗”は「タバコを吸うための道具」よりも「吸われるモノ」すなわち [受動者] として格解釈され易くなる。

- (51) 外公喜欢抽烟，常常看到他叼个烟斗坐在谷子旁边吸，外公也喜欢喝茶，每次吸了一支烟斗后都会喝上一壶茶。

（北方以北——西西 xixi 嘻嘻 xixi 的博客，〈外公的打谷场〉：

http://blog.sina.com.cn/s/blog_7e986a530102wfmm.html）

〔母方の〕祖父はタバコが好きで、キセルをくわえ粟の傍らに座って吸っているのをよく目にした。祖父はまたお茶も好きで、キセルを一本吸うと いつも決まって急須のお茶を飲むことになっていた。

例文の“烟斗”は厳密に言うとは“烟斗里的烟丝／烟斗丝”（キセルやパイプの中の刻みたばこ）のことであり、「容器で中身を表す」メトニミー表現となっている。“吃火锅”“{吸／抽}烟斗”もまた杉村2017の“写明信片”タイプに属する。

〔“吃食堂”場所〕〔“坐办公室”場所〕も基本的に「V＋了＋数量詞定語＋N」の形式をとった個別事象を表すことができない¹⁷⁾。

- (52) a *吃了一家食堂
b *吃了这家食堂
- (53) a *教了一所大学
b *教了那所大学
- (54) a *坐了一间办公室
b *坐了这间办公室
- (55) a *漫步了一片山野
b *漫步了这片山野

“吃食堂”“教大学”“坐办公室”“漫步山野”（山野を散策する）のNは言うまでもなく境界性のない、もしくは曖昧な概念的的事物としての場所であることから、上記の例文のように空間性を具える個別の実体である場所として用いることはできない。

また〔“吃食堂”場所〕は一般の〔道具〕同様、Nが動作の受け手（〔受動者〕）である事物のメトニミー形式として機能しているとは考え難く、従って次のような変換は成立し難い。

- (56) 吃(了)一碗食堂的面 → *吃(了)一碗食堂
(57) 教(了)两节大学的课 → *教(了)两节大学

王占华2000は“宁教十节大学，也不教一节小学”（大学で十時間教えても、小学校では一時間も教えようとは思わない）という文を根拠に、“(教) 大学”を“(教) 大学的课”のメトニミーとしてNを〔受動者〕と考える。ただ、この文の成立については文脈の支えによるところが大きいと思われ、また一種の対句（対偶）形式をとっていることも関係しているのかもしれない。中国語の対句表現は往々にして文法的に破格の形式を構成可能である。メトニミー表現には文脈の支えを必要とするものと、“吃火锅”“{吸／抽}烟斗”のように文脈の支えがなくとも成立するものがある。

以上述べてきたことから、VN中のNの担う意味役割は、Nが①個別の実体（個体）、非個別の概念的物事のいずれも表すことのできる〔受動者〕〔結果〕〔材料〕〔“堵洞口”場所〕〔目的〕〔“排票”受動者〕〔“避雨”原因〕と、②非個別の概念的物事を専ら表す〔方式〕〔道具〕〔“吃食堂”場所〕〔“坐办公室”場所〕〔“缩水”原因〕、の大きく2種類に分けられることがわかる。

②に分けられる意味役割は、Nが物体名詞であってもVNの形式中では実体を表し難いものであり、Vとの意味関係では、どれも受動性・変化性が高くないものである。言うまでもないが、〔方式〕〔道具〕〔“吃食堂”場所〕〔“坐办公室”場所〕〔“缩水”原因〕におけるVとNの関係は、他動・受動の関係ではなく、またNが動作後、変化するわけでもない¹⁸⁾。

一方、①の意味役割（〔“避雨”原因〕除く）は、Vが他動詞の場合に必須項としてとる〔受動者〕〔結果〕であればNには当然高い受動性・変化性が認められ、〔材料〕〔“堵洞口”場所〕〔“排票”受動者〕〔目的〕にも、やはり高い受動性・変化性が具わっていると言える。〔材料〕は製作義を具える動作を受けて製作物の一部に変化し、〔“堵洞口”場所〕は被覆・充填義を具える動作を受けて〔空〕の部分

が「有」の部分に変化し、「[排票]受動者」[目的]は獲得義を具える動作を受けて動作者のもとに移動する、という具合に、むしろ広義の「受動者」と解釈した方が妥当な場合もある¹⁹⁾。これら四つの意味役割はVの必須項となる核心格「受動者」[結果]に次ぐ「准必須項」とも呼べる存在である。

現実世界における個別事象（出来事）の典型とは、「動作を行う者（多くヒト）がある対象（多くモノ）に動作を通じて何らかの変化や影響を及ぼすこと」だとすれば、受動性・変化性を具え得る①のNが個体を表せることは至極当然のことである。

6. 慣用句VN

ここまで、「[“坐办公室”場所]Nが構成するVNの“坐办公室”は別として、比喻義を具えない非慣用句のVNにおけるNの実体性・個性について見てきた。ここでは、本稿1でA②とB②に分類した熟語性の極めて高い慣用句タイプのVNにおけるNの実体性・個性について少し触れておきたい。

既に“坐办公室”を例に述べたように、比喻義を伴う慣用句VNは「V+了+数量詞定語+N」の形式をとった個別事象を表すことが難しく、従ってNも個別の実体を表さない。ただ、慣用句に限った話ではないが、Nが具体的事物である実体を指示対象としていなくとも、汎用量詞の“个”を用いて個別事象を表す「V+了+个+N」の形式を構成することができるVNがある。その際、“个”は「気軽さ」のニュアンスを醸し出す作用を持つが、比喻義を具える概念的事物のNを実体化させる働きを有するわけではない。

例えば、「V+受動者」の“开夜车”は文字通り「夜汽車を走らす」の意味ならば“开了一列夜车”のように専用量詞を用いてNを実体化させることが可能であるが、慣用句の「徹夜する」の意味では専用量詞が使い難い²⁰⁾。“开夜车”が「V+了+个+N」の形式中に具現化した場合は、普通、慣用句の意味として理解される。

(58) 开了个夜车完成了工作。(大修館：訳も)

(夜業をして仕事を完成した。)

例文のNは「(個別の)夜汽車」の意味に変化しておらず、“个”は実体化・個体化の標識としての機能は持たない。但し、VNという行為・事象そのものを“个”と“了”によって、個別化・有限化していることは確かである。更に“开夜车”の場合、名量詞としての“个”が本来具える計数機能によって、次の例文のように統語上、数詞とともにNを修飾することも可能である。もちろん、この場合も“开夜车”は慣用句として使われており、実体としてのNすなわち「夜汽車」の数を数えているわけではない。「徹夜する」というVNで表される行為の回数を数えていると解釈すべきである。

(59) 开了一个夜车，才把这篇稿子赶了出来。(现代汉语词典)

(一晚徹夜してやっとこの原稿を仕上げた。)

(60) 开两个夜车，这个剧本就可以改完。(白水社：訳も)

(二日間徹夜すれば、この台本は手直しできる。)

(61) 他开了好几个夜车，终于把稿子赶出来了。(講談社：訳も)

(彼は幾晩も徹夜して原稿をついに仕上げた。)

慣用句VNがこの種の「V+了+个+N」に生起する例として“走后门”、“碰钉子”（障害にぶち当たる、ひじ鉄を食う）を用いた次の文を挙げておく。言うまでもないが、これら個別事象を表すVN中の“后门”“钉子”は個別の実体としての「裏門」「釘」を表しているわけではない。

(62) 过了两天，博学小姐到东环走了个后门才搞到两张票。(CCL)

(二日後、ミス博学が東環〔シネマ〕へ行きつてを頼つてようやく〔映画「ハリポッター」の〕チケットを二枚手に入れた。)

- (63) 下班以后, 我跑到东单第一理发馆, 那知道一进门就碰了个钉子, 店里的人说: “今天没位子了, 改天请早来吧!”(BCC)

(仕事が終わってから、東単の第一理髮館に駆けつけたが、なんと中に入るや断られてしまった。店の人が言うには「今日は席がないので、日を改めて早めに来て下さい」とのこと。)

7. おわりに

「裸動詞＋裸名詞」の構造をとるVNの表す事象・行為は個別的なものではなく一般化された非個別的なものである。個ごとではなく、類ごとに分けた事象と言ってもよい。中国語を使用する人々が文化や社会上の必要からVNの形式を以て、ある事象を言語化するなわち名付ける時、その事象は他の事象と区別して特徴づけるのに相応しい、類名を付すに足るものでなければならない。そして、杉村1999が述べるように、その事象を端的に象徴するVやNを組み合わせて、所謂慣用的、熟語的なVNを形成することもある。Nは必ずしも他動詞Vの必須項（[受動者][結果]）とは限らず、事象に類名を付ける必要性があれば、本来任意項であるはずの[場所][道具][方式]を目的語にとることもある。極言すれば、そこには、もはやVとNの間に通常なら存在するはずの格的意味関係は存在しない。とりわけ“喝墨水”“坐办公室”のようなVとNの固定度が極めて強く、「二つで一つ」の意味を表すような比喩義を伴う慣用句のVNはNが本来Vの必須項か任意項かの如何を問わず、格的意味関係を超越したVとNの結びつきの最たるものである。

個別の動作と個別の実体との結びつきを表すことも可能な「動作＋受動者」とは異なり、Vの任意項Nを目的語にとる「動作＋場所（“吃食堂”類・“坐办公室”類）」「動作＋道具」「動作＋方式」は基本的に非個別の概念としての動作と事物の結びつきである。そしてこれら概念としての動作の行われる[場所]、動作を行うための[道具][方式]は広い意味で言えば、動作の手段であり、事象・行為の類別化、特徴づけにうってつけの意味役割であると言える。更には袁毓林1998,136（本稿例文(15)参照）が述べるように、これら「V＋任意項N」自体が行

為の仕方(方式)を表していると思えることもできる。例えば、次のような食事のとり方(波線部)を複数列挙した文に“吃食堂”が使われていることは、このことを如実に物語っている。

- (64) 夏雨最大的生活问题就是吃饭, 中午在学校吃食堂, 晚上时常到街上吃, 有时到同学家蹭饭, 或者到同学家入伙。(CCL)

(夏雨にとって生活上の最も大きな問題は食事である。昼は学校の食堂で食べ、夜はしばしば街で食べ、時にはクラスメートの家に行き行って飯をたかるか、あるいは一緒に食事を作って食べる。)

次の例文では、“坐办公室(的)”が“干体力活(的)”と対比された文脈で用いられているが、言うまでもなく“坐办公室”は仕事の仕方(職種)を表しており、Nの意味役割[場所]、具体的に言うならば「仕事場所」は動作行為の類別化に一役買っていると言える。

- (65) 人家是坐办公室的, 咱是干体力活的, 怎么能和人比呢! (张云秋 2004, 107)

(あの人たちは事務職だが、俺たちは肉体労働者だ。比べようがないじゃないか。)

こうした非個別事象を表すVNによる事象・行為に対する類名付与機能は、Nが[場所][道具][方式]のものにとどまらない、先に挙げた[受動者][結果][材料]などの必須項・准必須項にも言えることで、実は中国語では「裸動詞+裸名詞」のVNには格関係の如何を問わずよく見られる基本的な用法、語用論的機能である。(17)aに出てくる「V+受動者(?)」の“打雪仗”、「V+結果」の“滚雪球”“堆雪人”は雪の遊び方を類別化し例示しているのであり、また(18)aにおける「V+材料」の“刷油漆”(ペンキ塗り)も“扫街道”(道路掃除)、“清除杂草”(草抜き)、“搬运垃圾”(ゴミ運搬)と並んで、路上での肉体労働の種類を「裸動詞+裸名詞」

の形式で表している。

但し、繰り返しになるが、「V＋必須項／准必須項」はアスペクト助詞や数量詞定語などを付加して個別事象や個体を表すことも可能なところが、「V＋任意項」と異なるところなのである。「V＋必須項／准必須項」が個別事象を表すことができるのは、V（具体的動作）がN（実体）に対して何らかの変化や影響を与えることができることと大いに関わっている。

こうして見てくると、非個別事象を表すVNにおいて、例えば①“读书”、②“读硕士”、③“读大学”のそれぞれのNを、① [受動者]（「本を読む」の場合）、② [目的]、③ [“吃食堂”場所] という具合に半ば場当たりのVとの格関係を定めることに果たして意味があるのかと言えなくもない。つまり、非個別事象VNではNの意味役割に関係なく、Vと結合する可能性があるからである（ただ、そのVNの組み合わせが成立するか否かは社会的な認知が必要とされる）。現に新語の多くはそうにして生み出されている。例えば“刷卡”（カードを通す、カード決済），“刷脸”（顔認証）のように。Nが個体を表す個別事象VNの形成には格関係が関与しているのに対して、非個別事象VNの形成は格関係によって厳格に規定されているわけではないと言えよう。

【注】

1) 裸名詞が個別・具体の事物を指示することがないわけではないが、木村2014では、その場合「先行文脈において個別・具体の事物に言及する表現（波線部）がすでに存在し、それに照応するかたちで裸の名詞表現（下線部）が用いられる」（木村2014：例文・訳も）と述べられている。

“你喜欢画画吗？”记者问一个七、八岁的男孩子。男孩子点点头，又摇摇头，说：“妈妈让我画。”（「絵を描くのが好き？」と、記者が一人の7、8歳の男の子に尋ねた。男の子は、こくりと頷いたかと思うと、また首を横に振って、「お母さんが描かせるんだ。」と言った。）

そして、このような照応用法における裸名詞は「統語的にも形態的にも無標ではあるが、談話構造上は有標化されていると考えてよい」（木村 2014）と述べる。

2) 但し木村2014によれば、経常的・習慣的行為の言及以外に裸動詞が使用される場合として、

問答の談話環境に用いられる場合や命令表現 (特定のイントネーションを伴う) で用いられる場合があると述べる。

- 3) ここで言う数量詞定語とはNの個数すなわち物量を表すことのできる「数詞+名量詞」を指し、量詞にはNを数えるのに見合った量詞 (例えば、“一杯茶”“一幅画儿”の下線部) が通常置かれる。なお、“喝个茶”“画了个画儿”のような、動作に「気軽さ」(山添 1998、橋本 2014) のニュアンスを持たせ、動量詞的な意味 (意味的には“一下”にほぼ相当) で使われる汎用量詞“个”は含めない。
- 4) 概念レベルの行為・現象 (非個別事象) に対して、日本語なら「目隠し (を) する」「豆まき (を) する」「雨漏り (が) する」のように「体現表現+する」の形をとる (相原 1985参照)。言うまでもないが、「豆まきする」は節分に行う行事のことであり、個別の「豆をまく」 (例えば、「目の前の鳩に豆をまく」という動作のことではない。このように、非個別事象を表し高度に熟語化 (イディオム化) された形式は、当該言語が用いられる国や地域の文化・社会を如実に反映する。
- 5) B①はVとNの組み合わせに制限があるとは言え、“教 {大学/中学/小学}、喝{大杯/小杯}、写 {正楷/草字/仿宋体}、画{水彩/油画/素描}”のようにNに同類の事物が選択項となって現れることが多い。
- 6) 例えばB①に属す“吃食堂”は次の (オ) aのように非文になるが、このことについて杉村 2017, 215は、「吃食堂」という行為は日本語の「外食 (を) する」や「自炊 (を) する」に似て、その実現を巨視的にとらえた表現は成立するが、微視的にとらえた表現は成立しないと述べている。次の(ア)~(ウ)は巨視的表現、(エ)~(オ)は微視的表現であり、(エ)は“吃”の視点から、(オ)は“食堂”の視点から表現を微視化しているとされる (杉村 2017, 215参照、例文・訳も。「食堂を食べた」の訳は原文のまま)。
(ア) 吃了十年食堂/吃食堂吃了十年。(十年間も食堂を食べた。)
(イ) 吃惯了食堂/吃食堂吃惯了。(食堂を食べることに慣れてしまった。)
(ウ) 我在学校顿顿都吃食堂。(私は学校で毎食食堂を食べている。)
(エ) a *正在吃食堂。(今ちょうど食堂を食べているところだ。)
b *吃食堂了吗? (食堂を食べたか。)

c * 吃了食堂再走。(食堂を食べてから行こう。)

(オ)a * 我昨天吃了一个食堂。(私は昨日食堂を一つ食べた。)

b * 我想吃勺园七号楼餐厅。(私は勺園七号楼食堂を食べたい。)

なお、(ア)のように時量補語をとって、Vの視点から表現を巨視化しているとされる文は、同じくBに属す「V+場所」の“坐办公室”、「V+方式」の“唱小生”でも成立可能である。

(カ) 坐了一天办公室 (一日事務仕事をした)

(キ) 唱了一辈子小生 (生涯二枚目を演じた)

しかしながら、Nは依然として実体ではなく概念的物事である (*坐了一天这间办公室)。“坐了一天办公室”の“一天”は“坐”や“办公室”にかかっているのではなく、“坐办公室”(事務仕事をする)という行為全体にかかっていると言える。

7) 「通過する・経由する」という意味の“走”は通過点・経由地を目的語にとることも可能である。“走这条路”(この道を通る)、“走那个门”(その門を抜ける)。

8) 张云秋2004,101-103では、この他のタイプの「V+場所」として、④“忘家里、存银行、写黑板上……”のようなタイプ、⑤“离开北京、去广州、上楼……”のようなタイプ、を挙げるが、④はVとNに介在する“在、到”が口語において脱落したもので、Vが直接場所名詞を目的語にとっているものとは見なされないこと、⑤はVが移動動詞であり、場所名詞は移動の [起点] [着点] [通過点] を表すVの必須項であること、から考察対象外としている。なお、占拠義を持つ“坐办公室”(事務仕事をする)は、“在”が脱落した“坐(在) 办公室里”(事務室で座〔ついで〕る)とはタイプが異なる。

9) “一个”が動量詞的な意味で使われる場合は成立する。注3) 参照

10) 「V+N [目的]」における獲得義については王凤兰2011参照。

11) 孟琮・他1987《动词用法词典》参照。“申请奖学金”(奨学金を申請する)は「奨学金を得るために申請する」との解釈からNが「目的」とされる。なお林杏光・他1994《现代汉语动词大词典》では「受動者」とする。

12) ただ、例文(26)の量詞“场”は風雨や災害などの回数を数える動量詞であり、個体数(物量)の単位としては本稿の考察対象の典型から外れる。张云秋2004,138では、逃避義を具えるVの目的語Nは一般に具体的な数量を表す定語の修飾を受けないとして、“*他避了两场大雨。”を

- 非文法的とする。(27)は“他躲过了一颗子弹。”のように“躲”の後に“过”を置くことが多い。
- 13) 张云秋2004,95にも同様の指摘がある。
- 14) [道具] 目的語は「V+了+物量+N」以外に同じく個別事象を表す形式である「V+了+時量+N」にも生起不可能である。*喝了一个学期的大杯 (王红斌 2009, 97)
- 15) 王占华2000では「容器で中身を表す」メトニミーの例として“他一连吃了三大碗”を挙げるが、“三大碗”は内容物のメトニミーと言うよりは食べる量(“大碗”は借用量詞)と解釈した方が妥当と思われる。つまり、「彼は続けざまに(例えば、ご飯、麺を)どんぶり(で)三杯食べた」という日本語に相当する。借用量詞に“大”“小”などの形容詞を付けた例としては、“三大锅汤”“一小铁盒白糖”(いずれの例も刘月华・等 2001, 137)がある。なお、“吃了一个/顿火锅”の“火锅”(こん炉の付いた鍋→中国式寄せ鍋料理)は「容器で中身を表す」メトニミーであり、構文的にも“吃”に対して道具目的語(調理器具)ではなく受動者目的語(食べ物)として機能している。
- 16) 杉村2017は、「もし“写毛笔字”から“字”が脱落した結果“写毛笔”が生じたと考えれば、“毛笔”は『用具で作品を』のメトニミーを介して“毛笔字”を表すことになるが、『毛笔で字をいくつか書いた』という意味で*“写了几个毛笔”ということではできない(杉村 2017, 227-228)とし、よって“小明写毛笔”という文は「“用毛笔写字”という事象が“写毛笔”とコーディングされたものであり、“小明”に対する属性表現—毛笔を日常的に使っている—となっている」と考えるか、あるいは(中略)選択肢取捨構文であると考えらるべきであろう(杉村 2017, 228)と述べている。
- 17) 但し[“吃食堂”場所][“坐办公室”場所]は「V+了+時量補語+N」の個別事象には生起可能なものもある。注6)の例文(ア)(カ)参照。
- 18) 张云秋2004は、[受動者][結果][致使](例えば“热菜”の“菜”)のNが目的語となる文を“典型受事宾语句”(典型的受動者目的語文)とし、それ以外のNが目的語となる文を“非典型受事宾语句”として、本稿2で挙げた(ア)～(ケ)にも何らかの“受事性”(受動者性)が認められるとの立場の研究であるが、张云秋2004,167によれば、[“缩水”原因]を除いた②のVNを述語(“谓語”)とする文の受動者性の程度は、[方式]と[“吃食堂”場所]がともに[中]、[“坐办公室”場所]と[道具]がともに[弱]である。なお、本稿で考察対象外とした[“愁钱”原因]は[弱]とされる。

- 19) 張云秋2004,167によれば、①のVNを述語とする文の受動者性は「受動者」(張云秋2004では“動事”と呼ぶ)が最も高く(最強)、[結果][材料][“堵洞口”場所][目的]は「強」とされる。[“排票”受動者]における受動者性の程度については張云秋2004,167には示されていないが、[受動者]として機能している以上、当然高いと言えよう。なお[“避雨”原因]は「中」である。
- 20) 橋本2014,51-52によれば、VNが慣用的意味を表す場合は専用量詞より“个”を用いることが多いとしながらも、N自身に比喩的意味がある場合、専用量詞を用いることもあるとして次の例文(訳も)を挙げる。

留(个/条)小辫儿以观后效。(弱みを握って以後の態度を観察する。)

我又让他扣了(一)(个/顶)帽子。(また彼にレッテルを貼られた。)

【参考文献】

- 相原茂 (1985) 「“亲嘴”の“嘴”は誰のもの?」, 『明治大学教養論集』 176号, 25-52頁。
- 大河内康憲 (1985) 「量詞の個体化機能」, 『中国語学』 232号。(本稿は、大河内康憲・著『中国語の諸相』: 53-74頁。東京: 白帝社 (1997.3)。に拠る)
- 木村英樹(2014) 「“指称”の機能—概念、実体および有標化の観点から—」, 『中国語学』 261号, 64-83頁。日本中国語学会。
- 杉村博文 (1985) 「道具目的語の形成—中国語「動・名」構造の一側面—」, 『中国語学』 232号, 14-22頁。日本中国語学会。
- 杉村博文 (1999) 「目的語の意味」, 『中国語』 7月号, 58-60頁。内山書店。
- 杉村博文 (2015) 「袁毓林「汉语意合语法的认知机制和描写体系」をめぐって」, 『中国語学』 262号, 31-56頁。日本中国語学会。
- 杉村博文 (2017) 「中国語VN構造における任意項の必須項転換」, 杉村博文・著『現代中国語のシンタクス』: 214-232頁。大阪: 日中言語文化出版社 (2017.6)。
- 橋本永貞子 (2014) 『中国語量詞の機能と意味—文法化の観点から—』。東京: 白帝社 (2014.1)。
- 山添秀子 (1998) 「“V个O”形式における“个”の意味的・文法的機能」, 『中国語学』 245号, 142-152頁。日本中国語学会。

郭锐 (1993) 〈汉语动词的过程结构〉,《中国语文》第6期, 410-419页。

郭锐 (1997) 〈过程和非过程—汉语谓词性成分的两种外在时间类型〉,《中国语文》第3期, 162-175页。

黄伯荣 (1998) 《动词分类和研究文献目录总览》。北京:高等教育出版社 (1998.11)。

刘月华・潘文娉・故韡 (2001) 《实用现代汉语语法 增订本》。北京:商务印书馆 (2001.5)。

任鹰 (2005) 《现代汉语非受事宾语研究》。北京:社会科学文献出版社 (2005.8)。

杉村博文 (2006) 〈“VN”形式里的“现象”和“事例”〉,《汉语学报》第1期。(本稿は、徐杰・姚双云・主编《动词与宾语问题研究》:107-114页。武汉:华中师范大学出版社 (2009.9)。に拠る)

沈家煊 (1995) 〈“有界”与“无界”〉,《中国语文》第5期。(本稿は、沈家煊・著《著名中年语言学家自选集 沈家煊卷》:163-190页。合肥:安徽教育出版社 (2002.12)。に拠る)

王凤兰 (2011) 「现代汉语“动词+目的宾语”及相关问题研究」,『札幌大学総合論叢』第31号, 263-269頁。

王红斌 (2009) 《现代汉语的事件句和非事件句》。北京:光明日报出版社 (2009.9)。

王占华 (1997) 「汉语特殊VO格式语义关系研究中的若干理论问题」,『人文研究』(大阪市立大学文学部紀要) 第49巻第10分冊, 863-903頁。

王占华 (2000) 〈“吃食堂”的认知考察〉,《语言教学与研究》第2期, 58-64頁。

袁毓林 (1998) 《汉语动词的配价研究》。南昌:江西教育出版社 (1998.8)。

张云秋 (2004) 《现代汉语受事宾语研究》。上海:学林出版社 (2004.10)。

【用例出典】

(参考文献からのもの、用例の後にインターネット上のサイト名・URLを記したものは除く)

(講談社): 相原茂・編『講談社中日辞典』(第2版)。東京:講談社 (2002.2)。

(大修館): 愛知大学中日大辞典編纂所・編『中日大辞典』(第3版)。東京:大修館書店 (2010.3)。

(白水社): 伊地智善継・編『白水社中国語辞典』。東京:白水社 (2002.2)。

(动词用法词典): 孟琮・郑怀德・孟庆海・蔡文兰・编《动词用法词典》。上海:上海辞书出版社 (1987.6)。

(动词大词典)：林杏光・王玲玲・孙德金・编《现代汉语动词大词典》。北京：北京语言学院出版社 (1994.11)。

(现代汉语词典)：中国社会科学院语言研究所词典编辑室・编《现代汉语词典》(第7版)。北京：商务印书馆 (2016.9)。

(CCL): CCL语料库检索系统, 北京大学中国语言学研究中心
http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai

(BCC): BCC汉语语料库, 北京语言大学大数据与语言教育研究所
<http://bcc.blcu.edu.cn/>

【付記】

査読担当の先生方より貴重なご意見、有益なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。